

今年を振り返る

12月の声を聞くと、今年もいよいよ残り少なくなってきたと実感します。年末を表す言葉として、俳句歳時記には、例えば「年の瀬」「年堺」「年迫る」「年尽く」「年満つ」「年暮る」等が挙げられています。また、旧暦（新暦でも通用）の12月の異称「師走」は、「経をあげるために**師僧も走る**ほど忙しい」という説が載っていました。そして、12月には一年で最も日が短い「冬至」があり、その他にも「第九」や「忠臣蔵」などは年末に欠かせないものとしてすっかり定着しています。

さて、今年一年を振り返るのもこの時節ならではのことでしょう。いろいろな振り返り方（「10大ニュース」、「新語・流行語大賞」、「今年の漢字」等）がある中で、私が注目するのは「今年の漢字」です。漢字一文字にその年の世相や流行、出来事が凝縮・反映されているからです。「今年の漢字」は、日本漢字能力検定協会が1995（平成7）年以降、毎年12月12日に発表しています。清水寺貫主が揮毫する姿は、年末に見られる光景としてとても有名です。同協会のホームページを閲覧してみました。そこには、過去27年間の「今年の漢字」が掲載されています。その中で最多4回選ばれている漢字があります。「**金**」です。オリンピック・パラリンピックでの日本人選手の活躍、金メダルが主な背景として考えられます。また、「**災**」「**震**」といった災害を想起させるものが複数みられ、改めて日本が置かれている自然環境の厳しい一面を思わざるを得ません。そうした中、希望に満ちた漢字があり、ほっとします。「**愛**」「**絆**」「**輪**」などです。できればこのような漢字が選ばれる年ばかりであってほしいものです。

ところで、千葉県教育委員会では例年12月下旬に「県教育界の主なできごと」を発表しています。かつて2年ほど選定に係る事務を担当させていただいた者として、毎年注目しています。今年のはたしてどのようなできごとが選ばれるのか楽しみです。

これからひと月、新年に向かって、穏やかな日々が続くことを願います。